

石川民医連と医師をめざすすべてのみなさんをつなぐ

2024
Autumn
64

みまっし通信

特集：能登半島豪雨災害レポート／研修医被災地支援
医療者が今できること



2024年ノーベル平和賞 日本被団協が受賞

Free Talk 医学生がハマるMLB観戦

表紙写真

流木と土砂が押し寄せた被災者宅で作業をするボランティア職員

発行
石川県民主医療機関連合会 金沢事務所
金沢市京町24-14
076-253-1458
gakusei@imin-iren.jp

被災地 復興支援 未来に向けて 医療者ができること

能登半島地震からもうすぐ1年。思うように進まない復旧作業の中での豪雨被害。新たな震源での地震。「自分たちは見捨てられるのではないか？」との不安の声が聞こえてきます。能登地域の被災者が今、どのような状況にあり、何に困っていて、何を望んでいるのか、石川民医連ではその想いを聞き取ることが何より大事だと考えています。

豪雨災害で復興遠のく

9月21日能登地域に線状降水帯が発生し記録的豪雨となりました。土砂崩れによる道路の寸断や断水が起き、各地で集落が孤立。いずれも元日の能登半島地震で多くの犠牲者が出た地域で、仮設住宅も浸水被害にあいました。

石川民医連では翌22日、輪島豪雨対策会議を持ち状況を確認しました。仮設住宅の被害も深刻でとても住める状況になく、市立輪島病院に避難者が集中しているとのこと。患者さんのために輪島診療所の職員が着替えなどを運ぶ支援を行いました。

能登への通行止めが解除されたことを受け、23日には石川民医連職員と友の会連合会員9名で輪島市内に支援に入りました。浸水被害は広範囲で早急な泥上げ作業が必要と判断し、全日本民医連を通じて緊急支援行動を呼びかけ、現在も全国からボランティア職員が集結し支援を行っています。



9月23日 (月・祝)

- 1 橋の欄干で止まる流木
- 2 床上の水を掃くボランティア職員
- 3 泥水がたまった衣装ケース
- 4 水が浸かった畳は想像以上に重い
- 5 泥水の中を歩く住民

…全国の民医連ボランティア職員…

たくさんボランティアが行くことで諦めの気持ちや心が折れそうな気持ちを少しでも元気づけられればと思います。

9月28日（土）～30日（月）



6



7



8

6 泥も固まってきてさらに重労働 7 左指を指しているところまで浸水したことが分かる

8 飲食店で厨房の片付け。「こんなにきれいになり再々営業に希望が見えてきた」と店主のうれしい声も。

10月4日（金）



9



10

9.10 濁流で流された家の塀や木材が道をふさいでいたのを撤去しなんとか通行できるように

…全国の民医連ボランティア職員…

思った以上に大変でしたが、諦めず日々復興に向け頑張っている方々を見て安心と共に勇気をもらえました。

二度の災害を乗り越える ～健康友の会（奥能登ブロック）～



右上) 能登半島地震の被災者と懇談する矢澤さん

健康友の会

（石川県健康友の会連合会）

地域での「健康・生きがい・助け合いづくり」の輪を広めています。石川民医連に加盟する病院や診療所などとともに健康で安心して住み続けられるまちづくりをすすめています。

ようやく決まった仮設住宅に入居した方、やっと再開した店、田畑、生業にも追い打ちをかける甚大な被害。奥能登健康友の会の矢澤さんに豪雨当日から現在までの様子をお話いただきました。

矢澤) これまで能登は台風での大きな被害はありませんでしたが今回の豪雨は街中を覆い隠すように水があふれ、濁流の中木々が流れ、凄まじかったです。床上浸水したお宅は家中泥に覆われ、言葉をなくす状況でした。全国の民医連のボランティアの方々が床下や台所の泥をかき出し本当に助かりましたが、自宅に住めるようになるには何日もかかり気が遠くなる作業です。それでも地域の方々は気丈で、その打たれ強さに胸が熱くなりました。

被災者の体調不良が心配

今は気が張りつめているのでみなさん自力で片付け作業を頑張っていますが、被災者の体調不良が心配されます。今は奥能登（輪島、珠洲）の友の会会員の方々の状況がほとんど掴めていません。これからの地域訪問と対話の中で、奥能登の地域の方々の現状や実態を把握していきたいと思っています。

被災地で支える ～輪島診療所～

10月3日（木）にご厚意で寄せられた衣類の頒布会が輪島診療所待合室で行われました。急激な温度変化に服装にも困ってる方も多く、無料で多くの方に提供させていただきました。季節の変化とともに体調の変化も気になる時期です。これからも待合室に並べて必要な方に届くように、診療と生活の支援を行っていきます。

輪島診療所

平成10年（1998年）に地域の皆さんの支援を受けて開設されました。元日の能登半島地震では被害がありながらも1月4日から診療を開始。市内外からの電話による処方依頼や市外への避難される患者さんの対応に追われながら、市内の患者さんの安否確認や状況把握にも取り組みました。今回の豪雨被害で浸水は免れたものの多くの患者さん宅、仮設住宅での被害を確認し、支援しています。





研修医も被災地へ 地域によりそう支援

城北病院の初期研修は地域に出向き、地域をとおして医療を考えることを重視しています。「地域で活躍する医師」を目指して地域や患者さんの医療要求に応えられるように研修をしています。10月3日、輪島市内で友の会会員さんのお宅の泥出し支援を行い、感じたことを話してくれました。

雨の中泥だらけの支援 被災地の方を想って 「20日以上経っていたけど全く変わっていなかった」

河合) 僕たちがボランティアに行った日は朝から雨で秋の肌寒さも感じる日でした。泥出しをしたお宅は酒屋さん。1階は天井まで、トイレや棚の中も泥まみれという状況でした。20日以上経っていたけどそのまま。何も変わっていない状況の中、作業を始めました。

藁科) 僕は家の外の側溝を掃除しましたが、雨で泥が流れ、かきだしてもまた逆戻り。泥においも心配でした。被災者の方は「家を壊したくない、消毒をしてもまた住む」(床下の泥を出した後は乾かして消毒が必要)と話されていました。自宅への想い入れの強い方でした、きっと被災された方みなさん同じ気持ちだと思います。能登は代々引き継いでいるお宅が多いもあり、他の被災者の方のお住まいも気になります。

松井) 本来なら泥出しは消毒が必要なので業者などプロに頼んだ方がいいのではないかと、とも思いながら作業してました。泥出しは単純だけどそのあとの作業も大変。でも業者に依頼するのは実際には難しいので自分たちができる限りのことをしてきました。役に立つことは他にもあるのではないかと、思いながら帰ってきました。酒屋は再開できるのかな、心配です。

長期的な支援が必要

河合・藁科・松井) 片付け作業については、泥の中にはいろいろな細菌があるので地域の方が作業中に傷ついて、破傷風などの感染症にならないか心配しています。今後は心身ともに体調を崩さないか、気をつけて見て長期的に支援していくことが必要だと思います。



上) 20日経った頃でもまだまだ床下の泥出しが必要なお宅が多数

下) 医師、看護師、リハビリ、事務、学生が参加して作業終了後に撮影



日頃からの「つながり」が災害時に大きな力に

わたしたち民医連が日常的に地域の人たちと取り組んでいるのが、安心して住み続けられるまちづくりの実践です。民医連の方針に共感し「民医連のあらゆる活動のパートナー」でもある「共同組織」と呼ばれる住民組織とともに、健康教室や健康相談活動、「居場所づくり」で地域のつながりをつくる取り組みを行っています。このような会員の方々との日頃からのつながりが、災害の時にも大きな力を発揮しています。

地震と豪雨、複合災害に対する石川民医連の支援

「困難あるところに民医連あり」私たちの強みは全国に仲間がいること。元日の地震に続き、9月の豪雨水害でも、全国から330人が屋内外や車庫、床下の泥だし、汚損家屋の搬出、災害ゴミの搬出などの支援を行いました。10月末から11月まで、輪島市や珠洲市などで改めて地域訪問(お宅訪問)行動を行いました。これまでの世帯構成や地域とのつながりが変化しているため、新たにつながりを「見える化」し、メンタル面を含めた健康状態の聞き取りなど必要な支援に結びつけていきます。

Congratulations! ノーベル平和賞受賞

日本被団協

「日本被団協」とは日本全国の被爆者らでつくる日本原水爆被害者団体協議会の略です。戦後79年。被ばく者の証言をとおして核軍縮の差し迫った必要性や平和を世界に訴え続けた方々。「核兵器のない世界の実現に向けた努力」が評価されました。

私たち民医連では医療者として、命を奪う戦争政策に反対している立場をとっています。城北病院では石川県内で唯一、被ばく者健診を行っており職員も平和学習を行っています。

ウクライナ・ロシア、イスラエル・パレスチナの戦争も終結する気配はありません。医師を目指す方はこの機会にぜひ平和や核兵器廃絶について考えてみてください。



自分の経験を語り続けたい 西本 多美子さん

石川県 被爆者友の会会長

家族や子育ての傍ら、公演や署名活動で核兵器廃絶を訴えてきたが、今までやってきたことがやっと認められたと思いました。

かつて石川県内に240人いた被ばく者は徐々に亡くなっていき、現在は40人ほどに減少しています。

世界を見渡せば、ロシアによるウクライナ侵攻が続いていますが、「核を軽く考えている」のではないかと憤りを感じています。二度と悲劇が繰り返されないように、自分の体験を語り続けたいです。

4歳の時に爆心地から2.3キロ離れた広島市の自宅で被ばく。自らの被ばく体験を語り継ぐ活動を続けてきています。被団協の構成団体である石川県被爆者友の会会長を務め、国内外での講演や署名活動を通じて核兵器廃絶を訴えてきました。

ノーベル平和賞授賞式 西本多美子さんもノルウェー・オスロへ

ノーベル平和賞の授賞式に合わせ受賞者の功績などを紹介する展示会が開かれ、広島市の原爆資料館が所蔵する、被ばく者が原爆投下後の様子を描いた絵が展示されることになりました。

西本さんは出発前に「世論は変わってくる。受賞してこれで終わりではない。私たちには先がないが、核を持っている国はたくさんある。核兵器は無くさないといけない、なぜなら核兵器を使う可能性があるから。日本政府が核兵器禁止条約に参加するよう、若い皆さん、とりわけ医学生の皆さんに関心をもってほしい。」とおっしゃっていました。石川民医連では西本さんの想いを伝える場を準備していく予定です。

次号ではオスロでの様子をお伝えします。楽しみに。



ロサンゼルスにあるドジャー・スタジアム
試合中の様子（西谷さん撮影）

世界のオオタニに会いに

福井大学3年 西谷 架

医学部3年の西谷です。今回は僕が好きなメジャーリーグを紹介したいと思います。

最近では大谷翔平選手が話題ですが、浪人時代から彼のプレーに何度も勇気をもらい、気付いた頃にはメジャーリーグにハマってしまいました。一昨年、実際にアメリカに行って見てきた本場の野球は圧倒でした。日本人にはないパワーとスピード、球場の雰囲気など全てが圧倒的なMLBにより惹かれました。来年の夏再び観に行くこととなり、今からワクワクしています。

みなさんにもぜひ、メジャーリーグの魅力にハマってもらい、MLBの話で盛り上げられたらいいなどと思って紹介させていただきました。

本場の野球を見たくなる度 ★★★★★

石川民医連／城北病院からのお知らせ

わたしたちの医療・介護活動に共感し、共に働いてくれる
あなたを将来を応援します！

石川民医連

奨学金制度

医師・歯科医師を目指す学生

1～6年生 (月額) **金額を選択** する事ができます！

① 50,000円
② 100,000円

薬剤師を目指す学生

1～4年生 (月額) 50,000円
5～6年生 (月額) 70,000円

看護師・保健師を目指す学生

全学年 (月額) 50,000円

リハビリ・歯科衛生士・介護福祉士を目指す学生

全学年 (月額) 50,000円

詳しくは、石川民医連ホームページをご覧ください

石川民医連 金沢市京町 24-14 tel. 076-253-1458

石川民医連の病院施設等への勤務により返済を免除する規定を設けています！

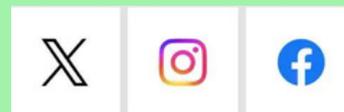
学生ボランティア募集

困難を抱える方に寄り添う医療を
地域・患者さんのために行動しませんか？

石川民医連では医学生・高校生・予備校生などのボランティアを受け付けています。参加希望の場合はお電話またはメールにて地域訪問ボランティア希望とお伝えください。

【支援内容】仮設住宅、被災者地域訪問
【問い合わせ・申込】石川民医連 藤牧
076-253-1458 gakusei@imin-iren.jp

能登半島地震の支援活動を
SNSで発信しています



imin-iren.jp または「石川民医連」で検索

石川民医連奨学金制度／城北病院の見学・実習については医学生担当までご相談ください
石川県民主医療機関連合会 金沢市京町24-14 076-253-1458

石川民医連 医学生・医療系学生サポートセンター / Instagramこちらから→

金沢事務所 金沢市石引1-10-7

内灘事務所 河北郡内灘町ハマナス ハイツKY101号



ISKW_MIN_STU